

令和2年度 佐々町総合教育会議（第1回） 会議録

開催日時：令和3年2月24日（火） 13時30分～14時15分

開催場所：役場別館 2階会議室

出席者：古庄町長、教育委員（舩委員、山之内委員、寺崎委員、石橋委員）

黒川教育長、水本教育次長、落合補佐、山本総務課長、内山補佐

傍聴者：なし

【次第】

- 1 開会
- 2 町長あいさつ
- 3 教育長あいさつ
- 4 協議事項
 - (1) 教育行政について
 - (2) その他
- 5 閉会

【会議録】

1 開会

山本総務課長

時間前ではございますが、本日の会議につきまして、町のホームページにて、傍聴の案内をいたしておりましたが、傍聴の希望はありませんでした。傍聴の申請は、佐々町総合教育会議傍聴要領第3条の規定によりまして、開催時刻の15分前までに手続きを行うようになっており、既に締め切らせていただきましたので、ご報告申し上げます。

それでは、佐々町総合教育会議を開催いたします。

2 町長あいさつ

山本総務課長

開催にあたりまして、佐々町長があいさついたします。

古庄町長

皆さん、こんにちは。本日はお忙しいところ、佐々町総合教育会議にご出席をいただき誠にありがとうございます。また、教育委員の皆さまには、日頃から佐々町の教育行政の推進に、ご理解とご協力をいただいておりますことに、厚くお礼申し上げます。

さて、この総合教育会議は、教育大綱の策定に関する協議のほか、教育のための諸条件の整備、地域の実情に応じた重点的な施策、児童、生徒に被害が生ずる場合の緊急措置についての協議、調整を行うことを目的としております。

本日は、これらに関する現状について、教育委員会から報告をいただきながら、諸課題についてご協議いただくこととしております。

また、新型コロナウイルス感染症により、教育の現場におきましても、大きな影響がっておりますが、町としまして、子どもたちの安全な教育環境の整備に取り組んでいきたいと思っております。

本日は、実りある会議にさせていただきますようお願い申し上げまして、簡単ではございますがごあいさついたします。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

3 教育長あいさつ

山本総務課長

それでは続きまして、黒川教育長にごあいさつをお願いいたします。

黒川教育長

皆さん、こんにちは。本日は、総合教育会議を開催していただきまして誠にありがとうございます。

本年度を振り返ってみますと、新型コロナウイルス感染症対策に奔走した一年だったと思います。

また、その都度、教育委員の皆さまにご助力をいただきながら対応して参りましたが、予算を伴う対応については町長のご理解とご決断によって、大きく前進したのではないかなと思っております。

ご承知のとおり、総合教育会議の目的の一つは教育の条件整備など、重点的に講ずべき施策について協議調整することですが、本町においては、町長をはじめ、町長部局のご理解とご協力のもと、佐々町の教育振興がなされていることに感謝をしているところでございます。

また、総合教育会議の一つの目的である、児童生徒の身体生命の保護と緊急の場合に講ずべき事案の措置については、現在のところ重大な事案は発生しておらず、緊急の措置に関しての総合教育会議は開催していませんが、いつ本町で起こるかもしれないものであり、本町では起こらないという認識はもってはならないと思っております。

いじめ、児童生徒の安全確保、GIGA スクール構想の実現と、課題は山積しておりますが、佐々町教育委員会として、一つ一つの課題に、真摯に取り組んでいきたいと考えています。

本日の会議では、町長に教育委員会の取り組みについて更にご理解をいただくとともに、教育委員の皆さまのご意見をいただく機会になればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

山本総務課長

ありがとうございました。

4 協議事項

山本総務課長

それでは、次第に従いまして進めさせていただきます。

佐々町総合教育会議設置要綱の第 4 条の規定によりまして、会議の招集者である佐々町長が議長を行います。町長、議長席の方をお願いいたします。

あとの議事進行につきましては、議長の方によりしくをお願いいたします。

古庄町長

それでは始めさせていただきます。改めまして、皆さん、こんにちは。

ただ今から、佐々町総合教育会議を開会したいと思います。

それでは、はじめに、本日の会議の議事録署名者を指名します。

寺崎 純子委員、石橋 琴美委員を指名しますので、よろしくお願いいたします。

(1) 教育行政について

古庄町長

それでは議事に入ります。協議事項の 1 番目の「教育行政について」、教育委員会の説明をお願いいたします。

水本教育次長

予めお手元に準備をさせていただいております資料については、マル秘としています。

今日の会議が終わりましたら、取扱いには十分に注意をしていただきたいと思います。

それでは、この資料に基づきまして、順次説明をさせていただきます。

(「1 年齢別男女別人口（幼少人口）の推移」の説明)

まず、1 頁をご覧ください。0 歳児から 15 歳の年度別の幼少人口の推移について、過去 5 か年間について記載をしております。

下の表を見ていただければお分かりになると思いますけれども、ほぼ横並びの状態にあります。平成 27 年 12 月末と令和 2 年 12 月末を比較しますと、男子 69 人、女子 35 人、合計 104 人の増加、5 年間で 104 人の増加となっております。

なお、これは資料にはありませんけれども、総人口で比較すると、平成 27 年 12 月末の人口は 13,818 人、令和 2 年 12 月末人口は 14,097 人と、279 人の増加となっております。ここ数年、幼少人口の増加傾向にあることが分かりますが、人口の増加人数の内訳のうち約 37%が幼少人口となっており、若い層の増加傾向が分かります。

口石小学校では、平成 28 年度に多目的室の改造を行い、普通教室を 1 クラス増加、佐々小学校においても、2 階の生活科室を普通教室に改造したという経過があります。

(「2 児童・生徒数の推移」の説明)

次の頁をめくっていただきまして、児童生徒数の推移ということで、これは 5 月 1 日現在の児童生徒の人数です。令和 2 年度の各学校別の児童生徒数の人数は、佐々小学校で 410 人、口石小学校で 577 人、佐々中学校が 399 人、合計 1,386 人となっております。

網掛けしている部分になりますけれども、3校の児童生徒数の合計が、ここ数年間のうちに約100人増加している状況が分かります。下の表がグラフになっておりますので、お目通しください。

次の頁をお願いします。3頁でございますが、まず上の方、不登校児童生徒の推移ということで、平成27年度以降、令和元年度までの決算が出ておりますので、数値を記載しているところです。

上の方ですけれども、全国、長崎県、佐々町、それぞれにおける不登校児童生徒の推移を示したものです。グラフにつきましては、一番下の左のグラフになります。すみません、グラフの中の小学校、赤の中学校が漏れておりますので、後でそのように見ていただければと思います。

（「3 不登校児童・生徒数の推移」の説明）

下の左のグラフは、過去5年間の佐々町の不登校者数の推移を示していますが、ここ2年間に於いて増加の傾向にあります。

国・県の不登校者の率に比較しましても、いずれも本町が下回っておりますけれども、教育委員会としましては、不登校対策は大きな課題として捉えております。

その対策として、毎年、年2回～3回、不登校支援対策委員会を開催し、各種機関・団体と情報交換を行い、協力体制の強化・早期発見・早期対応につなげております。

（「4 いじめ認知件数の推移」の説明）

右の下の方に、過去5年間の、いじめの認知件数の推移のグラフを見ていただきたいのですが、若干増加の傾向にあります。

現在のところ、認知した「いじめ」については、全て解消できておりますけれども、いわゆる重大事案は発生しておりません。各学校では、児童生徒のほか、保護者を対象としたアンケート調査を実施し、実態調査に努めております。

併せて、各学校では、管理職、学年主任、生活指導主任、生徒指導主事を参集した「いじめ対策委員会」を開催しており、日々、いじめ解消に向けた対策が講じられております。

（「5 令和2年度における教育委員会関連事業の抜粋」の説明）

主に施設整備について説明をさせていただきます。（1）学校施設関連で取り組んだものでございますが、現在、進行形もございまして、まず、①佐々小学校・口石小学校体育館天井改修工事ということで、天井落下防止対策と併せまして、照明についてはLED化したということになっております。

②佐々中学校トイレ改修工事、これは昨年度に、佐々小学校、口石小学校を行ったんですけれども、今年度は佐々中学校のトイレを改修したものです。洋式化ということで、ほぼ100%の洋式化ということになっております。

それから③GIGAスクール1人1台端末整備事業ですけれども、これは国の前倒し事業として取り組んでおります。ノートパソコン、タブレット型の端末を、令和2年に入りましてから今年度事業として取り組んでおりますが、3校で1,521台の購入となっております。現在、初期設定事業、モバイルWi-Fiルーター購入事業は済んでおりますが、

LAN 配線実施設計及び工事については、現在進行形でございます。そして学習用ソフト導入事業も現在取り組んでいるものでございます。3 月末にほぼ 100%完了するものでございます。

それから④佐々小学校プール改修工事も、現在工事を進めているところではございますけれども、年度内に完成予定でございます。

⑤佐々中学校部活動室等改修工事も、現在取り組んでおりますが、3 月中旬頃完成する予定となっております。

⑥佐々小学校遊具更新工事は、滑り台とジャングルジムの取替をする工事でございます。現在、発注しております、3 月中に完成を予定しております。

それと、⑦コロナ感染症対策として、全校の自動水洗化工事については、もうすぐ検査に行く予定となっております。

(2) の社会教育、体育施設でございますが、①公民館階段手摺設置工事は、1 階から 2 階に上る手摺設置ですが、これは完了しております。

それから、②町民体育館天井等改修工事は、現在進めておりますが、3 月末頃完成予定です。

③図書館女子トイレ改修工事も、現在取り組んでいるところです。

④コロナ感染症対策の事業ですが、これも先ほどの学校と同じように、社会教育、体育施設全てを自動水洗化にするものでございます。一昨日、月曜日に全て検査を完了しております。

それから⑤コロナ感染症対策として、公民館に換気扇の設置が完了しております。

(「6 令和 2 年度における児童・生徒の安全対策事業について」の説明)

(1) 通学路安全対策推進会議は、毎年開催しておりますけれども、令和 2 年度は 10 月 7 日に実施いたしております。通学路の危険箇所 9 箇所の安全対策を検討しております。これは、下に書いておりますとおり、各種機関、団体を参集させていただき、それぞれ一緒に現場を見て回りました。全部で 19 名の参加という実績でございます。

令和 2 年度は、通学路などの危険箇所について、2 年に 1 回、保護者のアンケートを取る予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため変更がございまして、中止しております。次年度、令和 3 年度に保護者にアンケートを取って、危険箇所がないか調査をする予定としております。

それから、(2) 防犯ブザーの配布ということで、小学 1 年生、それから中学 1 年生、全てに配布をしております。

私からの説明は以上でございます。

古庄町長

ただ今、教育委員会の方から教育行政について説明がありましたが、委員の皆さまからご質問、ご意見等があれば、よろしくお願いいたします。

今、いろいろと新型コロナウイルス対策ということで、手洗いの自動水洗化などに取り組んでおりますが、これも子どもの安全のためにやっていかなければならないと思いますし、それから GIGA スクール構想についても新型コロナウイルス対策ですので、早く

やっていかないとはいけませんので、ご協力をいただければと思います。

古庄町長

質問はないでしょうか。ないようでしたら、1 番目の教育行政については終わります。

(2) その他

古庄町長

続きまして、その他になりますが、教育委員の皆さまから質問や要望などがあれば、お願いします。

肱委員

本町は、これまで「暮らし いちばん！住むなら さざ」のスローガンをかけ、「住んでよかった、住み続けたい、住んでみたい」まちづくりに向かって着実に歩みを進めていると実感しています。その成果が県下では稀に見る着実な人口増加であり、県北地域では「一番住んでみたい町」との評価をいただいています。

特に、子育て世代の方々の評価が高く、その要因は、町長が力を注いでくださった、学校教育、教育施設の充実にもあったと確信しています。

本年度、対応していただいた、小学校体育館の天井や中学校トイレの改修、新型コロナウイルス感染症対策として、全児童生徒への迅速なマスクの配布、水道蛇口の自動化、将来を見据えた GIGA スクール構想実現のための早期の取組は、子どもや保護者から高い評価をいただいていますので、今後とも子どものための施策を充実させる町政の推進をお願いします。

古庄町長

これまで、「暮らし いちばん！住むなら さざ」のもとに施策を行ってきましたが、今年が総合計画を作り替える年であり、議会に上程する予定としています。今回の計画においては、持続できる社会づくりとして、SDGs に当てはめて計画を作ろうということで、議会にも話はしております。

先程、肱委員からもお話がありましたように、本町は人口が増加しているということで、いろんな施策も影響しているかも知れませんが、まずは西九州自動車道で佐々 IC が出来たことが一番大きいのではないかと思います。それから下水道が整備されていますから、若い人たちが住みやすいということ、それから買い物をしやすい、医療施設がある程度整っているなど、コンパクトシティということで、小さな町にある程度整っているのが要因ではないかと思います。

人口は2040年を境に減っていくことになりますが、若い人たちに住んでもらうために、私たちもどのようにして人口を減らさないようにするのか考えていかなければならないと思います。議会でも議論になったのですが、私が人口を 14,500 人を目標にするとおっしゃったのですが、あまりにも規模が大きすぎるのではないかとお聞きしまして、いろいろと意見はあって、そんなに増やすのは厳しいということですが、やはり目標は持っていきたいと思

っています。

人口が減らないようにしなければ、税金も集まらないし、町の事業が出来なくなるわけ
でして、今でも4割程度しか税収では賄っておらず、後は交付税でやっておりますので、
やはり人口を減らさないようにしなければならない。私たちも頑張らないといけません
が、長崎県内でも、長崎市や佐世保市に頑張っていて、その周辺は人口が増えてい
くなかで、町も施策をやっていかなければならないと思います。

佐々町においては、4大事業をやらなければならないのですが、一つは、し尿処理等前
処理施設です。公共下水道に入らない人が必ず何パーセントかいらっしゃいますので、民
間の事業者へ委託しているのですが、これを自前でやろうということで施設を作らなけ
ればなりません。

それから、学校給食施設を早く作らなければならない。これは、子どもたちのアレルギー
など、いろいろとあるものですから、大きな施設を作って配達するために、現在の3つ
の小中学校の給食施設をまとめてしまおうと考えています。

それと、役場庁舎の建替ですが、耐震を満たしていないので、確か震度6で倒れるので
はないかと、これも早くやらなければならない。役場がいろいろな中心機能となりますか
ら、どうしても建替えないといけない。これは起債事業で交付税措置があるお金を借りる
ことができるのですが、今年までに手を挙げていないと国から認められないということ
で、今年が期限ギリギリだったものです。それで現在進めておりますが、今から実施設計
をやっていくということで、建設場所は役場の裏で進めているものです。

それから、クリーンセンター整備事業です。ゴミ処理場ですが、北松7か町で作ってい
た施設ですが、これも耐用年数が過ぎており、今は、修理をしながらやっている状況です。
一つの方法として、佐世保市にお願いできないかと頼んでいるのですが、まだ良い返事は
来ておらず、佐世保市も自分達の所で一杯ということで、佐世保市にお願いできるのが何
年後になるか分からないので、町としてはある程度お金をかけてリニューアルをしよう
と思っております。

この4つの事業が何十億とかかるのですが、やはり教育ということで、子どもたちは
宝ですので、財政が厳しいとはいっても、教育にはある程度お金をかけてやっていかなけ
ればならないと思っており、いかにして補助金をもってくるのか、職員にも知恵を出して
いただいて、やっていかなければならないと思っております。

この4つの事業は、年度は違えど絶対にやっていかなければならないのですが、今年
は町長・町議会議員の選挙の年になりますので、予算は骨格予算になります。経常経費と
いうことで人件費とか需用費とかを組むわけですが、肉付けした予算はできません。誰が
町長になるか、議員になるか分からないですから、正式に予算を組むのは、7月か9月の
予算になると思います。

しかし、本町は福祉と教育に力を入れる町ですから、今まで通りやっていると、や
はり教育や福祉は本町の売りですから、それを疎かにしないようにやっていると
いけないと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

石橋委員

子どもたちの安全について、積年の懸案であった、口石小学校の通学路の歩道の整備、松瀬から市瀬にかけての歩道の整備など、近年の通学路の安全については、飛躍的な向上が見られると感じています。これも、町長をはじめとする町当局の方々の粘り強い県への要望活動の成果だと思っています。

また、通学路安全推進会議には、町の総務課・建設課にもご出席いただき、グリーンベルトが迅速かつ適切に設置されるなど、きめ細やかな対応には感謝しています。

芳ノ浦の歩道に隣接した崖についても、県の方で具体的な改善が始まるとも聞き及んでいます。近年、多くの改善がなされているものの、通学路については、まだまだ課題もあり、今後とも改善に向けてのお力添えをお願いいたします。

古庄町長

この件については、以前、川崎市の通学路で大変な事故が起こったと思いますが、やはり、私たちが想像もしなかった子どもの安全を脅かす事件が発生しているということで、子どもや高齢者をいかにして守るのかということが、一番重要なことではないかと思えます。

それと通学路については、教育委員会やいろんな関係機関が取り組んでいると思いますが、そしてボランティアの方々に見守りをやっていただいております、このボランティア活動は、佐々町が一番活発に行われていると思います。それで、ソフト面は良いのですが、私たちがハード面を担ってやらないといけないと思っております。

しかしながら、全体的な予算というのも考えてやっていかなければならないのですが、やはり通学路の安全は確保しないといけないと思います。また、夜間に帰る人たちの街路灯をどうにかできないかというのを考えており、暗い所での声掛け事件があっているものですから、町内会と話し合いながらやっていかなければならないのですが、町内会も電気代の負担がありますから、十分に話し合いをしていかなければならないと思います。

それから、芳ノ浦の崖の歩道ですが、具体的な設計が行われていると聞いております。

これは県の工事ですので、この前も町と議会と県へ要望活動を行っており、その中でも話をしておりますので、もう暫くすると出来るのではないかと思います。

町としましては、通学路の安全安心については、十分配慮してやっていかなければならないと思っておりますので、今後ともご協力をいただきますようお願いいたします。

山之内委員

私からは GIGA スクール構想の推進として、GIGA スクール構想については、国は当初「5年間かけて」と言っていたのが、急遽、本年度中に1人1台のタブレットを児童生徒に整備することとなり、その対応に追われた状況がありました。なんとか、物品の準備は本年度内に終了するとの報告を受けていますし、先生方の研修も急ピッチで進められているようです。

導入初年度は活用の混乱や戸惑いが出ると思っていますが、タブレットの導入によって確実に教育の在り方は変わってくると思います。

そのような中で、私が一番気になっているのは、3年から5年後のタブレット更新期の

費用負担です。更新期の費用負担は、今回と同じように全額国の補助がなされるのが望ましいと考えます。

私どもも、長崎県市町村教育委員会連絡協議会を通じて、国への要望事項としてあげていきたいと思っておりますが、町としても、是非、国への要望事項として関係機関等を通じて、要望をあげていただけないかと思っております。

古庄町長

この GIGA スクール構想は新型コロナウイルス対策にも関係するものでして、遠隔操作ができるということで、これを進めていかなければならないのですが、この GIGA スクール構想は、佐々町はどこよりも早く取り組んでいるのではないかと思います。

先程、山之内委員さんが言われたように、タブレットは5年も経てば、また新しく変わりますので、それで、タブレット1台に45,000円としても、約6,000万円程度の費用がかかります。それを更新しなければならない時期が来るのですが、更新については、国の補助金は今のところ無いということです。今までも、国や県は、始めは補助金があるからやってくれというのですが、次に更新する時は、補助金がないということになっても、なかなか町で6,000万円も出すのは難しいものです。私たちも国に継続してやってくれということで、町村会や市長会、教育委員会の連絡協議会もありますので、あらゆる手を使って要望をしたいと考えております。補助事業は継続していただかなければ、小さい町村は困りますので、一般財源で6,000万円も出すのは財政的に難しく、また、このように更新には補助金を出さないような事業が他にもいろいろとある訳ですので、私どももいろんな立場から国への要望としてあげていきたいと考えていますので、皆さまのご協力もお願いいたします。

寺崎委員

私は各校の支援員の配置について、意見要望をさせていただきます。最近の子どもたちを見ていると、いろいろな特性を持つ子どもが増えてきたような感じがします。2012年の文部科学省の調査では、発達障害の可能性のある児童生徒の割合は6.5%となっており、それから今10年余りたっていますが、現在はもっと増加しているように感じています。

年に1回、教育委員として町内の小中学校を見学させていただいておりますが、特に、小学校では十分な支援員の配置がされており、それぞれのお子さんの家庭や学校に寄り添っている感じがいたしました。

支援員がいることによって、より個別的な学習指導が出来ており、佐々町の子どもたちの学力向上に大きく貢献できているように感じております。また、それに加えて、町内にある学校の支援体制の連携が取りやすいのも佐々町ならではの長所だと思います。

今は新型コロナウイルス感染症の問題もあり、社会のICT化は加速すると考えられ、ICTの支援員の配置についても、GIGA スクール構想の推進の大きな力を発揮していただけることと期待されます。

このような多方面に渡る支援員の配置については、保護者の方からも感謝の声を多く聞いております。また、この充実している教育環境に、先程から町長さんのお話にもありました、人口減少の歯止めにもなるのではないかと思います。子育て世代としましては、

生活環境もそうですけれども、やはり佐々の学校に行かせたいということは、住むにあたっての大きな選択の基準になるのではと考えております。

今後とも佐々の子どもたちに、良好な学習環境を提供するために、引き続き、支援員の配置については格段のご配慮をよろしくお願いいたします。

古庄町長

支援員の配置について、先程おっしゃられました発達障害については、今までは学校に入るまでは、なかなか気づいてあげるのが難しかったのですが、今は、5歳児健診など、健診の時に気づくことができるようになってきているようです。佐世保市には発達障害の支援センターがあったと思うのですが、こういうのが町にもあれば良いのですが、なかなか専門の先生がいないということで難しいようです。

また、GIGAスクール構想ですけれども、先生たちもなかなか対応するのが難しいと思いますし、そのための支援員も必要ではないのかと思います。支援員の配置は、子どもたちのためにも必要ではないかと思いますので、出来るだけ要望があれば対応していきたいと思っておりますし、今の支援員の配置数は確保しなければならないと思っております。

今後、どれくらいの支援員が必要なのかは、教育委員会でも良く話し合って考えられて、要望をしていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

古庄町長

他にないでしょうか。雑談やお話などがあれば、別の機会にでも聞かせていただきたいと思います。

5. 閉会

古庄町長

本日は、地方公共団体と教育委員との意思の疎通を図る機会を設けさせていただきありがとうございました。

今後とも教育委員会と連携を図って、佐々町の教育行政の振興に努めてまいりたいと考えておりますので、引き続き、皆さま方のご協力いただきたいと思います。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

山本総務課長

それでは、以上をもちまして、佐々町総合教育会議を終了したいと思います。本日はお忙しいところ誠にありがとうございました。

上記のとおり会議の次第を記載して相違ないことを証するため、ここに署名する。

佐々町教育委員会

署名委員

寺崎 純子

署名委員

石橋 琴美

令和 3 年 3 月 15 日

令和 2 年度 佐々町総合教育会議（第 1 回）

